文化癸酉春

芳園集

尾張　梅擎軒逸人述

芳園集序

芳園破屋四壁
八雲書菫乃友
世の知る所
所にあり

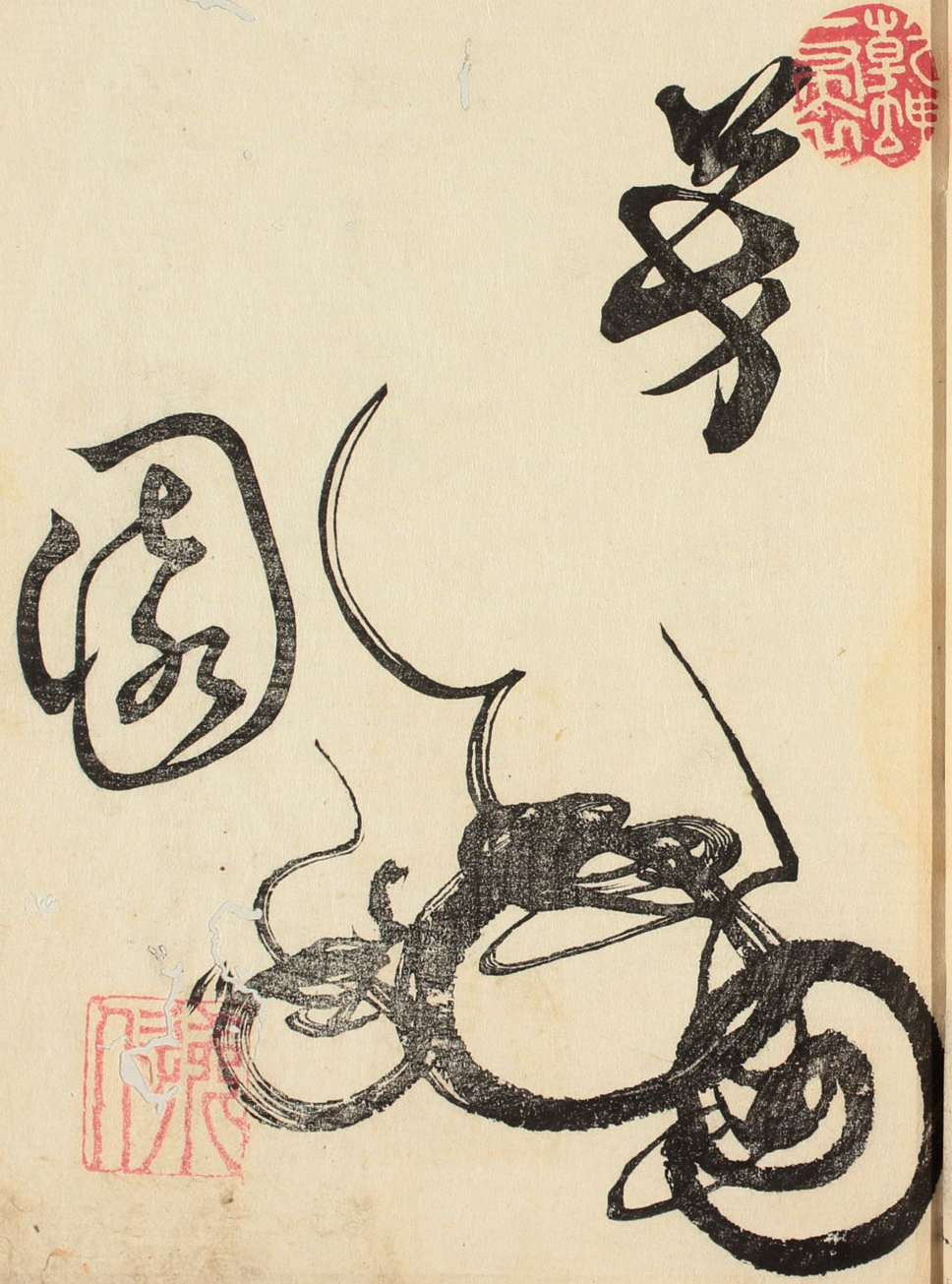
海樹軒圖書

四季を以て集の名と
し男等園碎月
西集なの男ハ男
園集と名事て又を

付け縣ハ碎月集
と号し今を所に
表及歩及集
外内り如あの題志

我が氏倩の意示
李嘉の集中八勢
自董二画賛一
鼓舎ハ黄画自

董ニて多句を出
色我意あり尤
平出集嘉夏を
撰む扶桑の名山もの

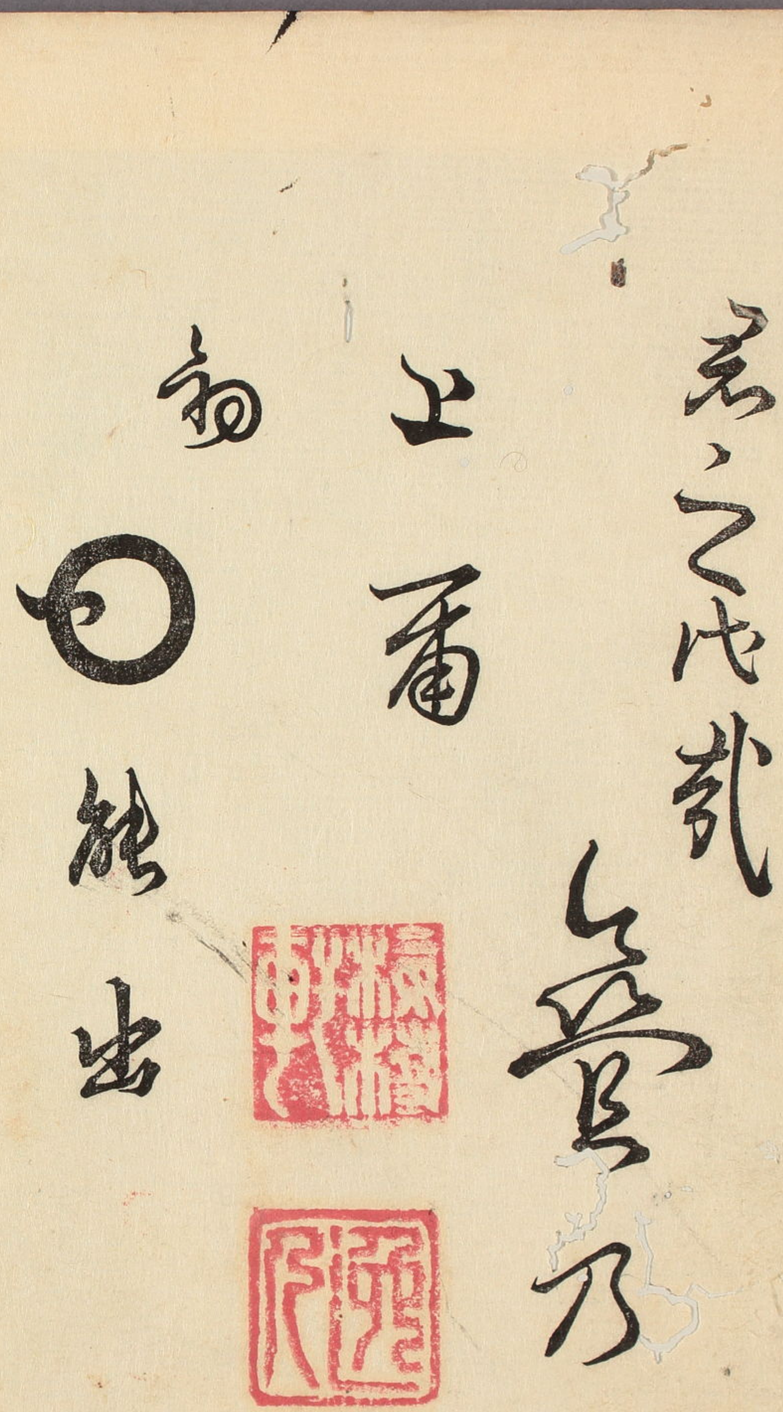


冬を屠るの辛

志ずのり

梅樹軒逸人識

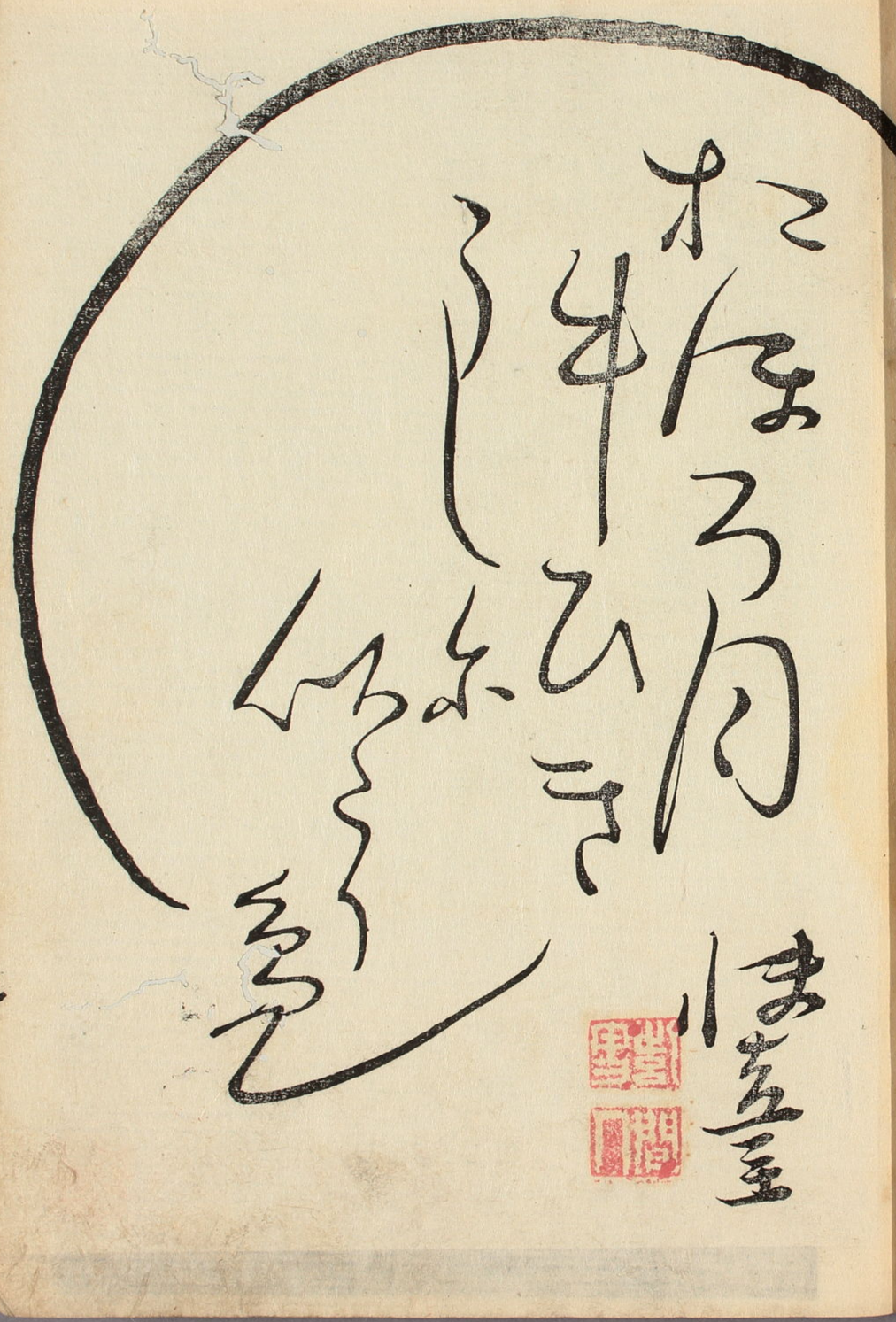
花乃匂ふ
宿に
作業と
思ひけり
梅樹軒逸人
皇國書
漢籍


古今代歌
上番
雄出

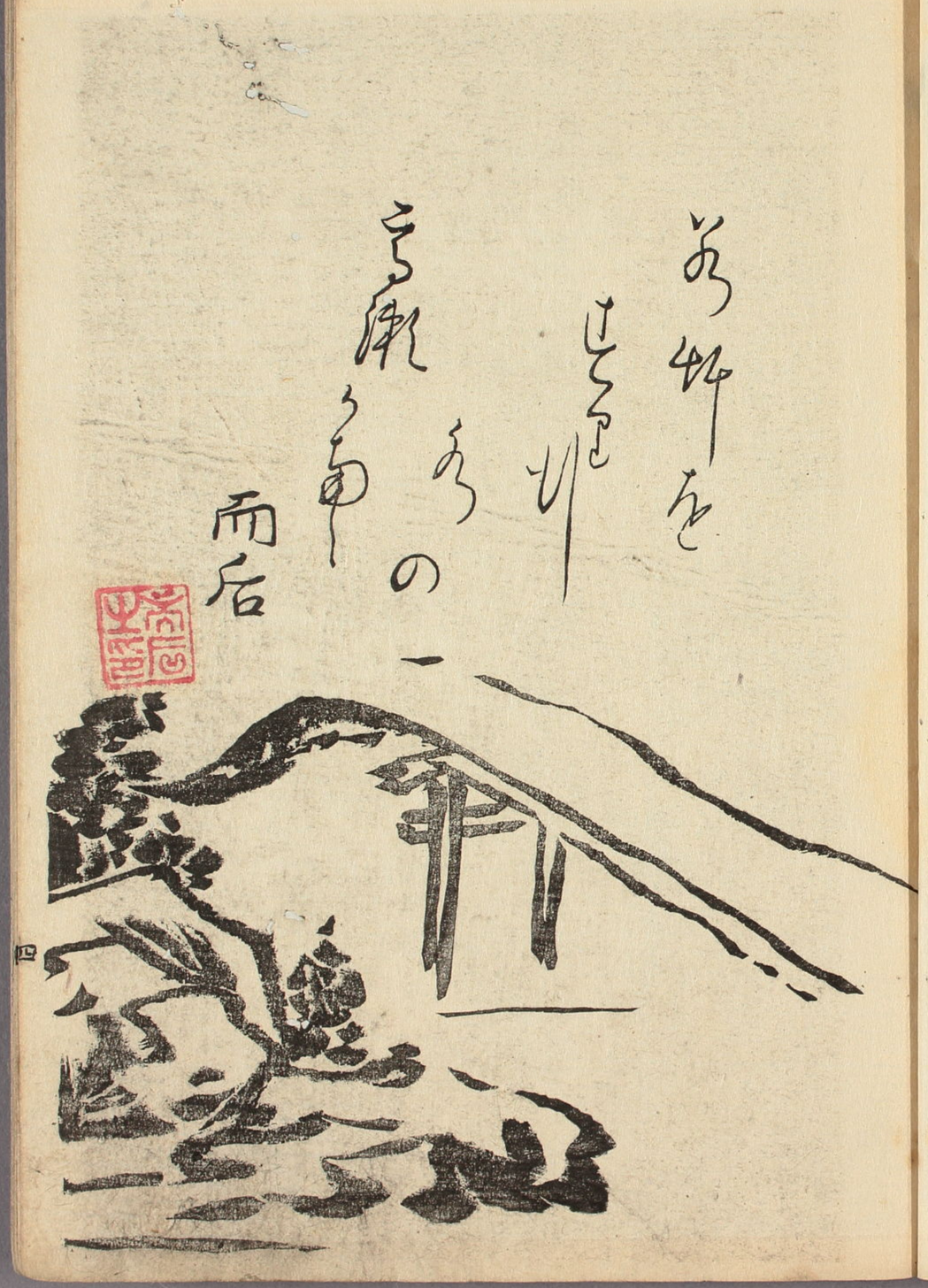
詠

涼しきや芝の海来る瀑布の水烟り

逸人



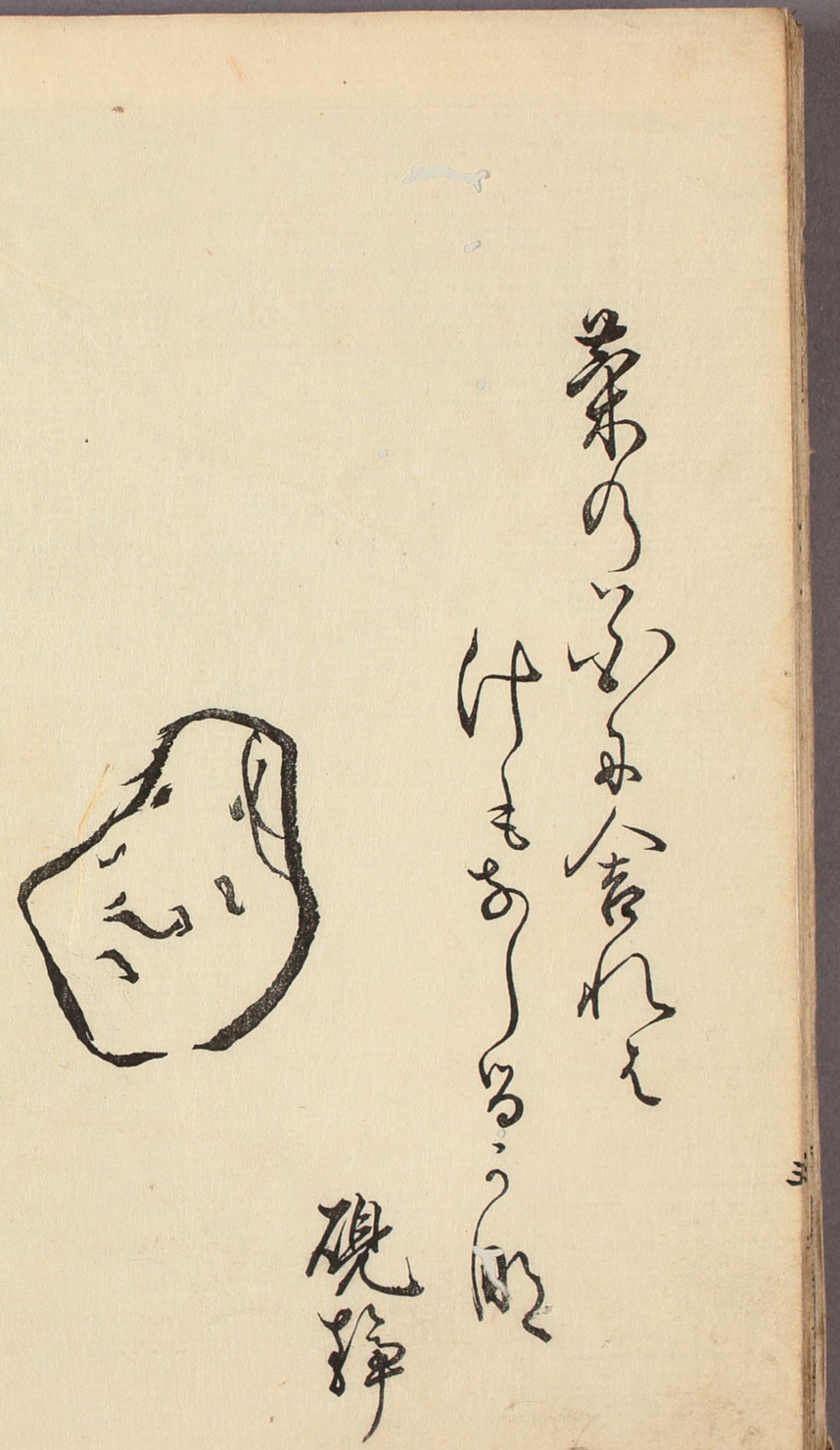
烏羽玉延齊
久理加邉世
絲柳
范舎

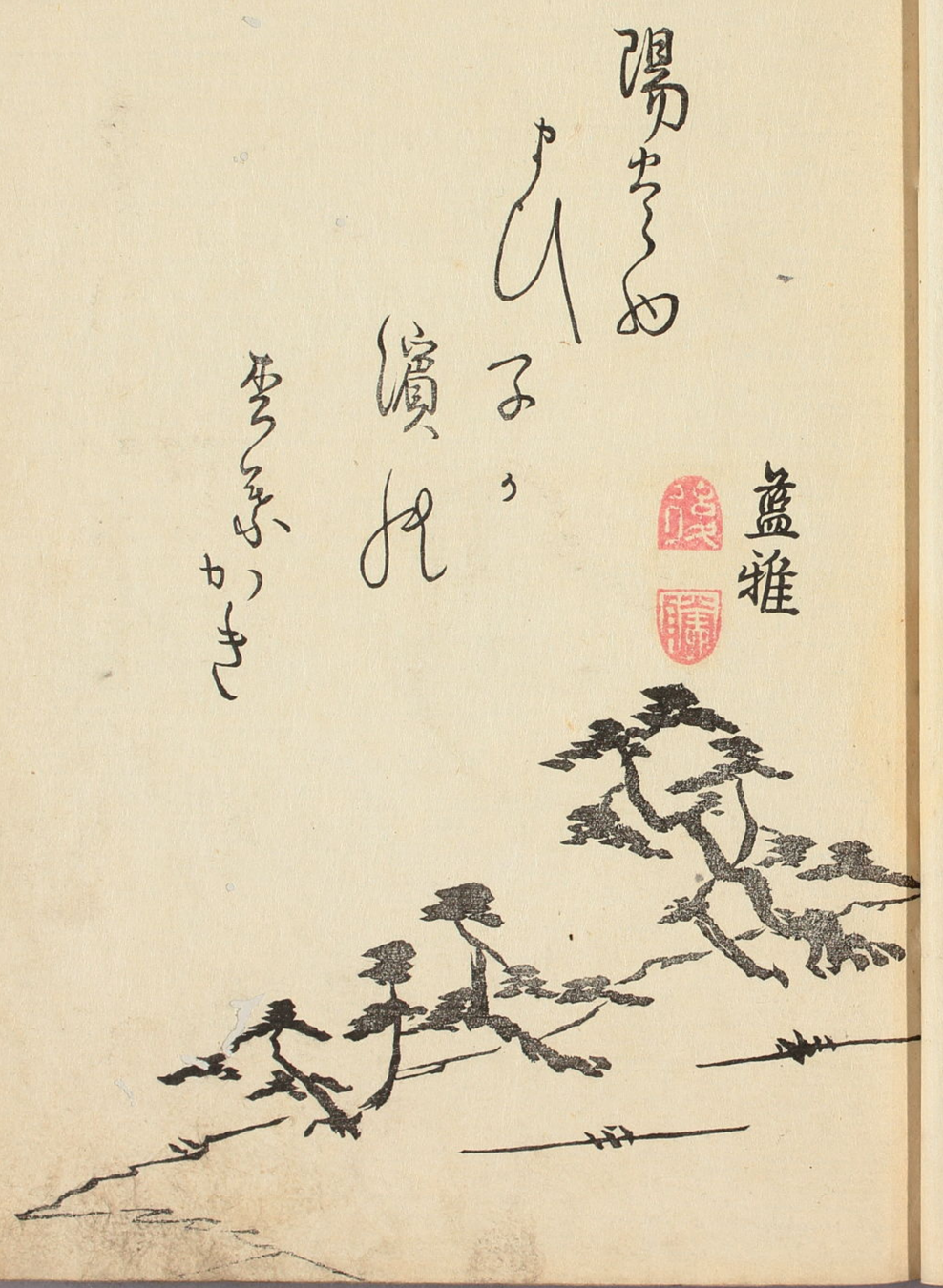


青柳や
うしろ
へ梅刺
形ち
比良の
うら

東岡石

四月や
ほとゝぎす
声聞て
なほ本尼



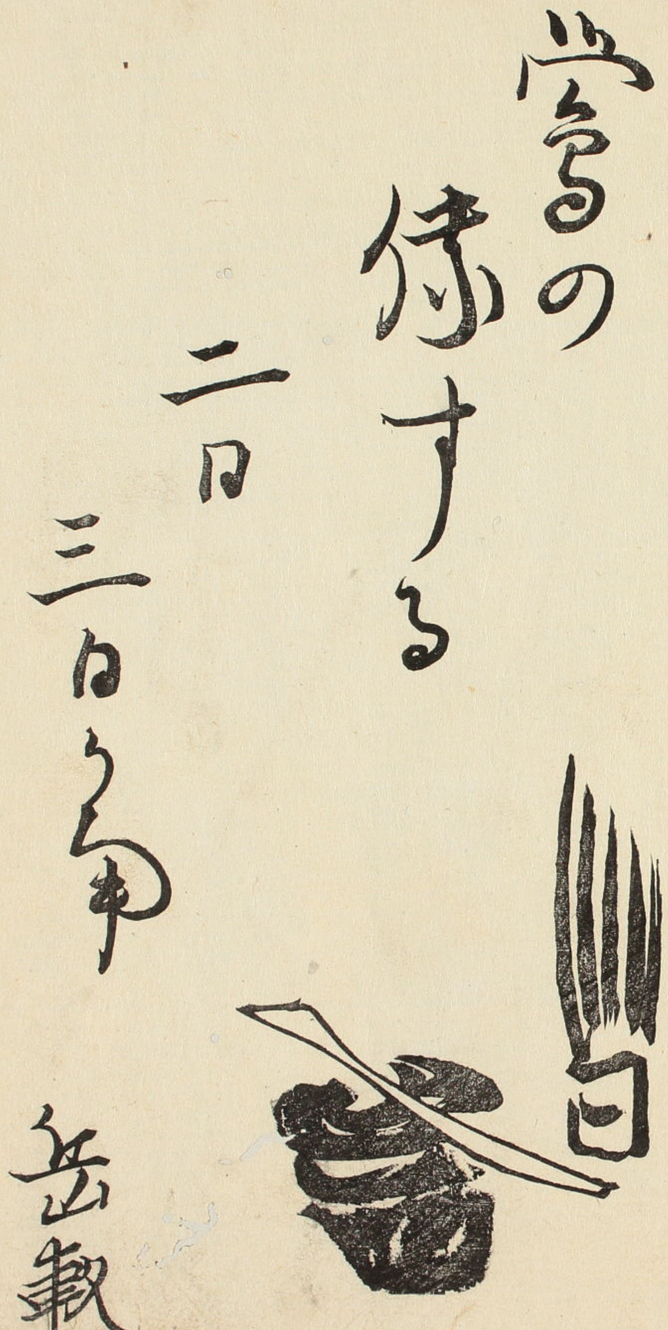


元の室ゝ
秋麿
薬丹
藪柑子
蹲ハちかの
梅の花

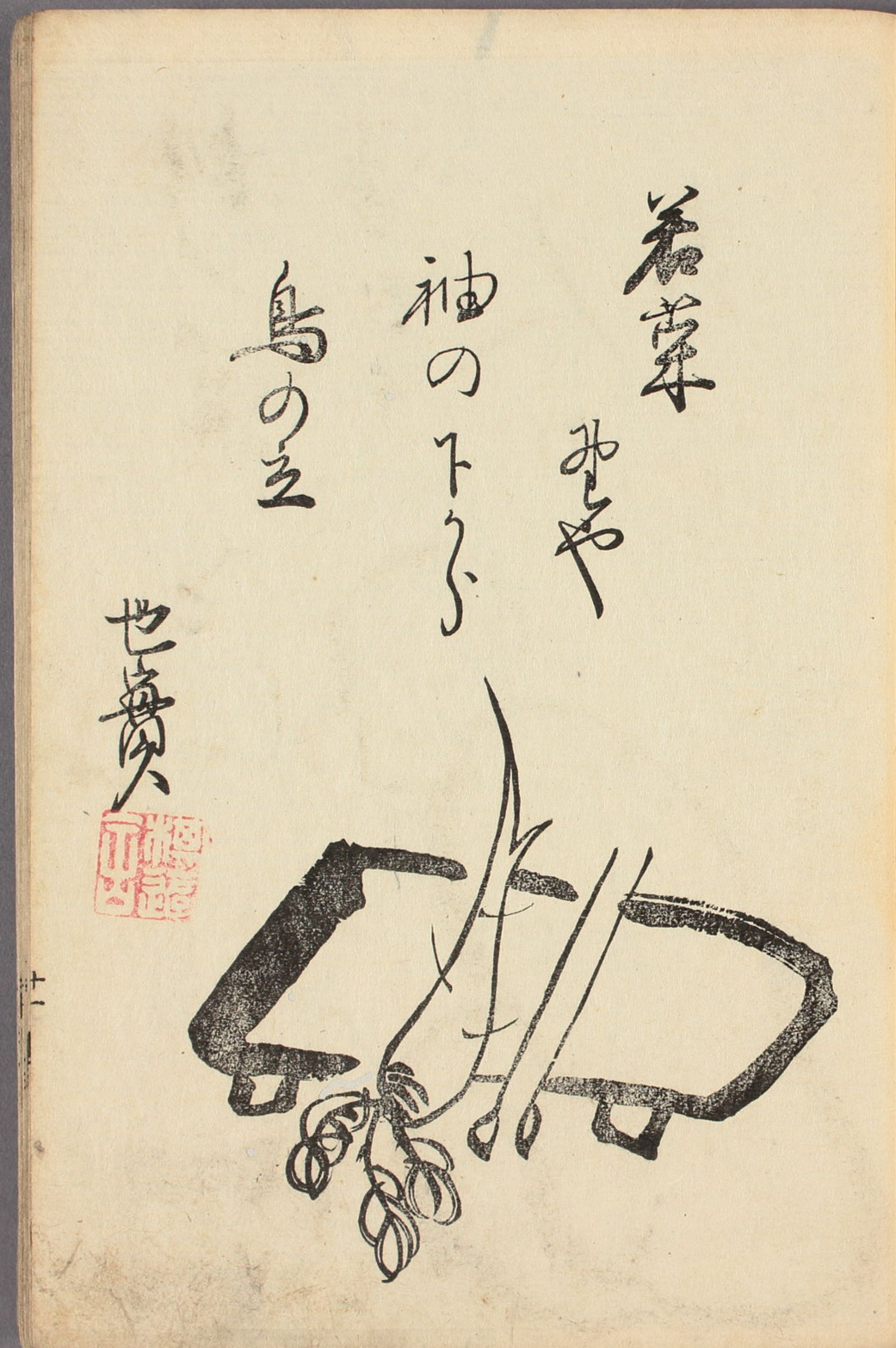
等よや
月ぬくとく
霄　雪
臺樵

朝和尚　大巣

仙州

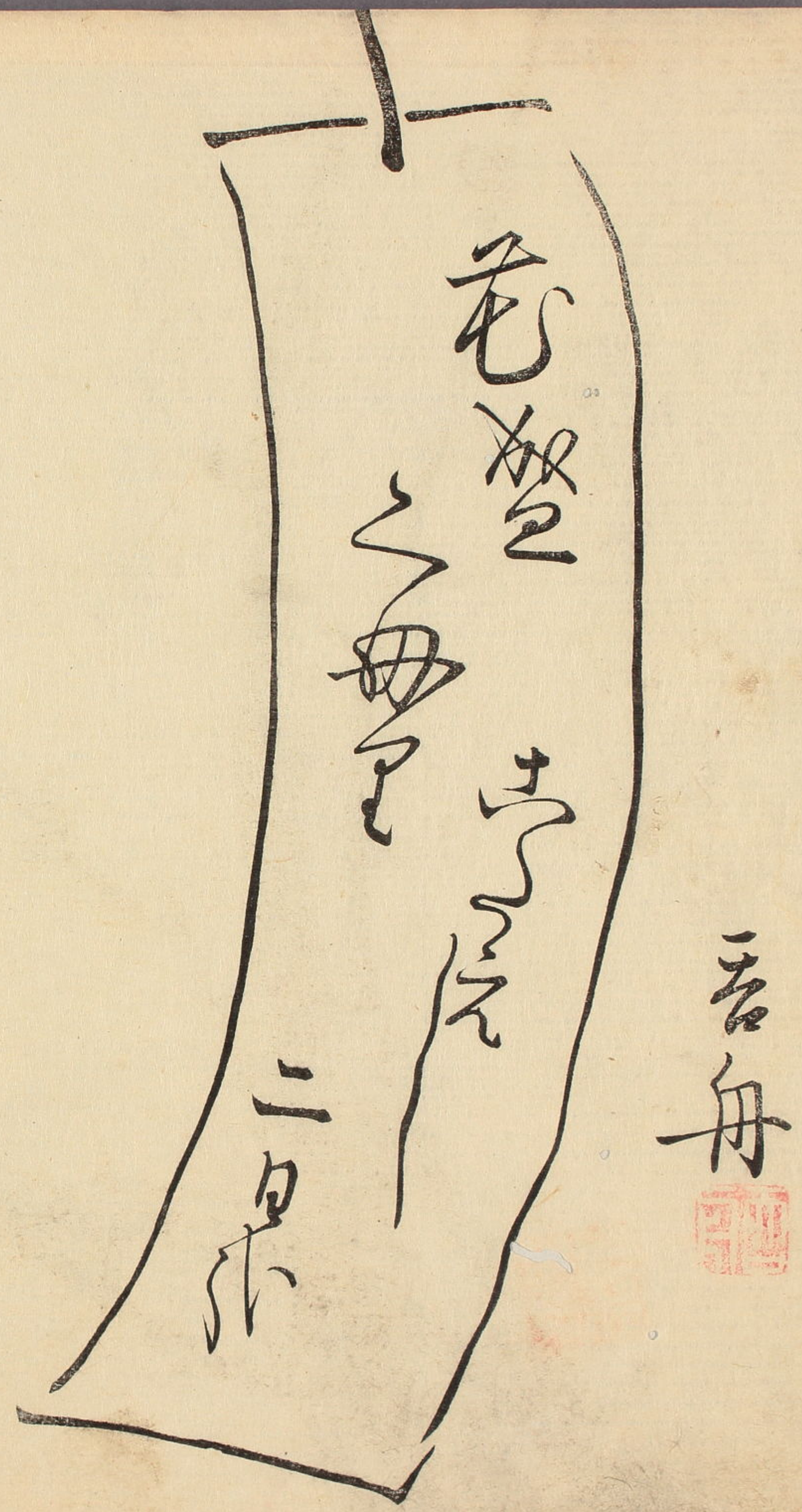

當の
俳すする
二日
三日

物喜を
味るゝ
人の
孝高
無暦


若菜
みどり
袖のトゝ
鳥の立
世貴

隱家や美人人
行むと春の下

逸人



吾舟

花色見よ　さく女

杉もまつ

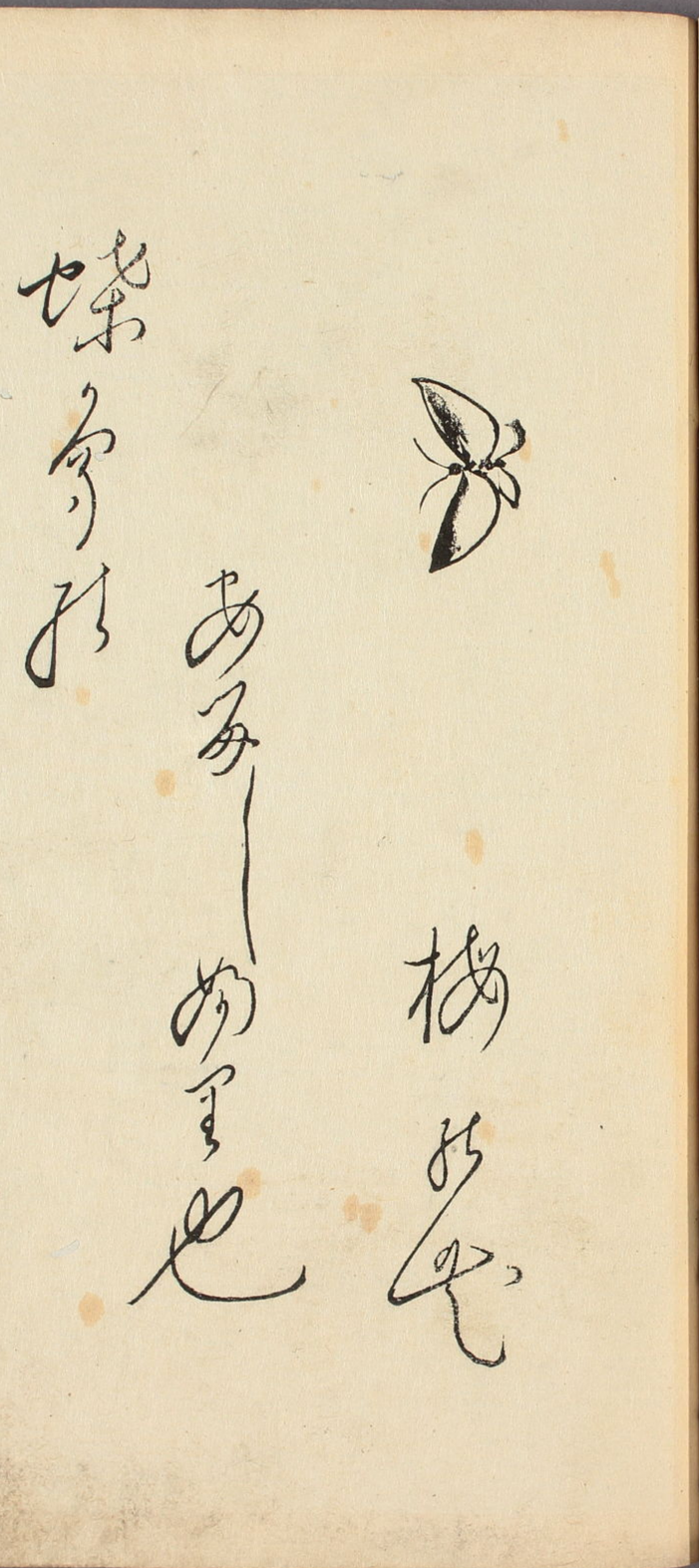
ひとよあひ山

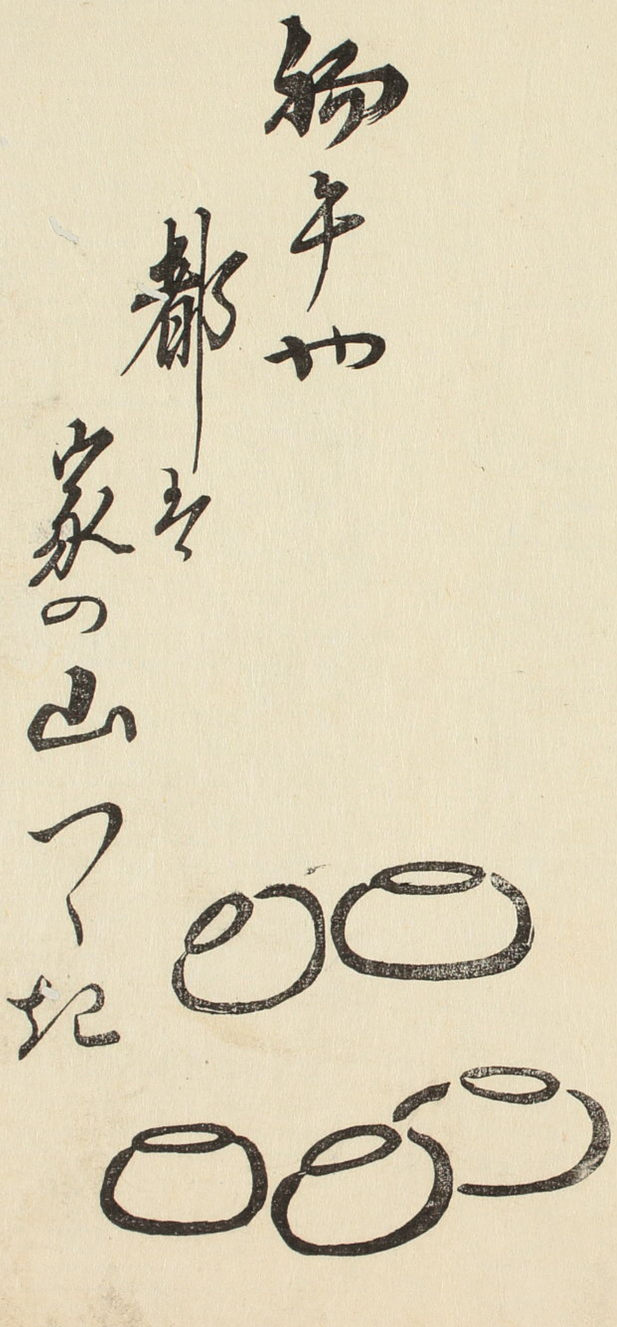
月ぜく

牧機かり

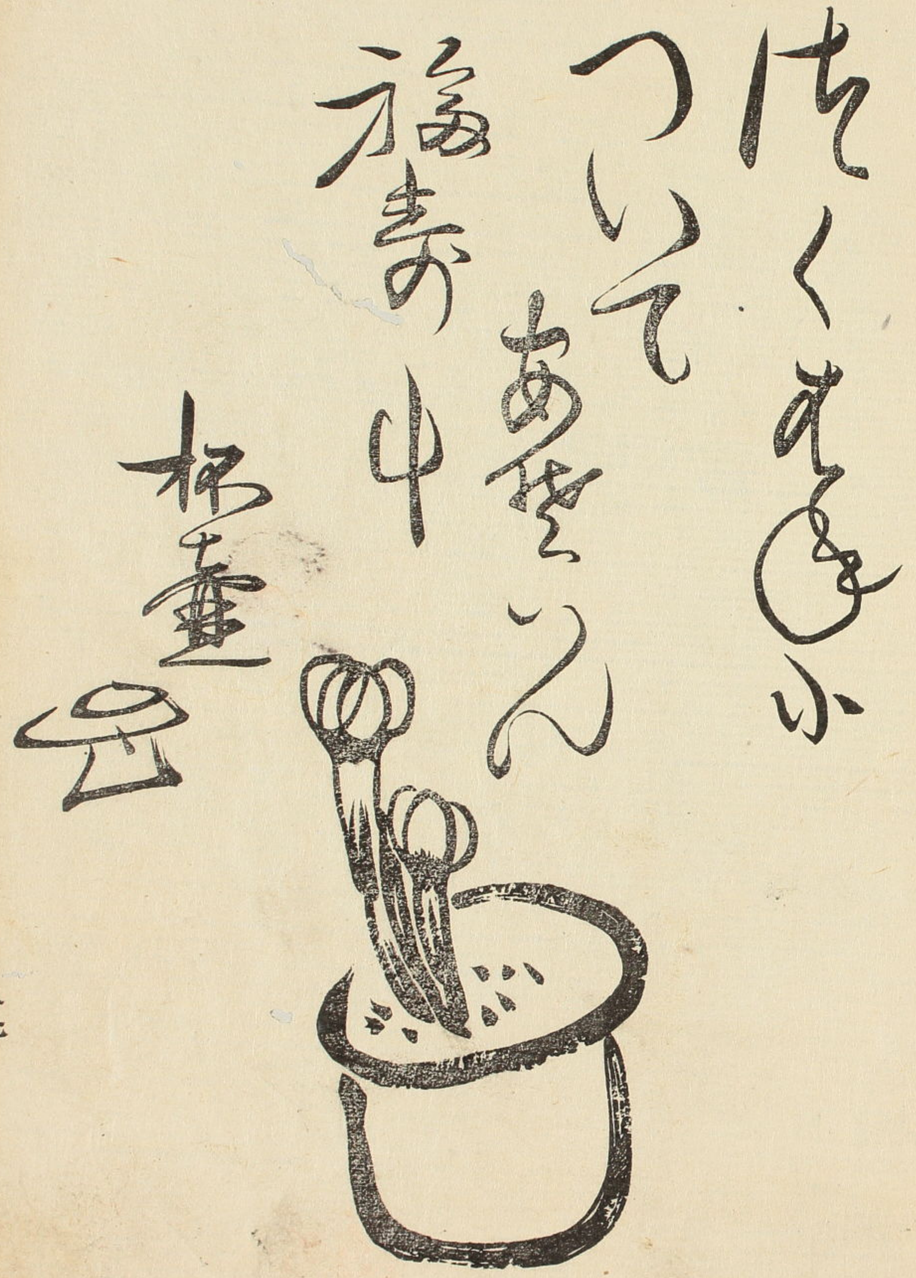
大堰河

昆明



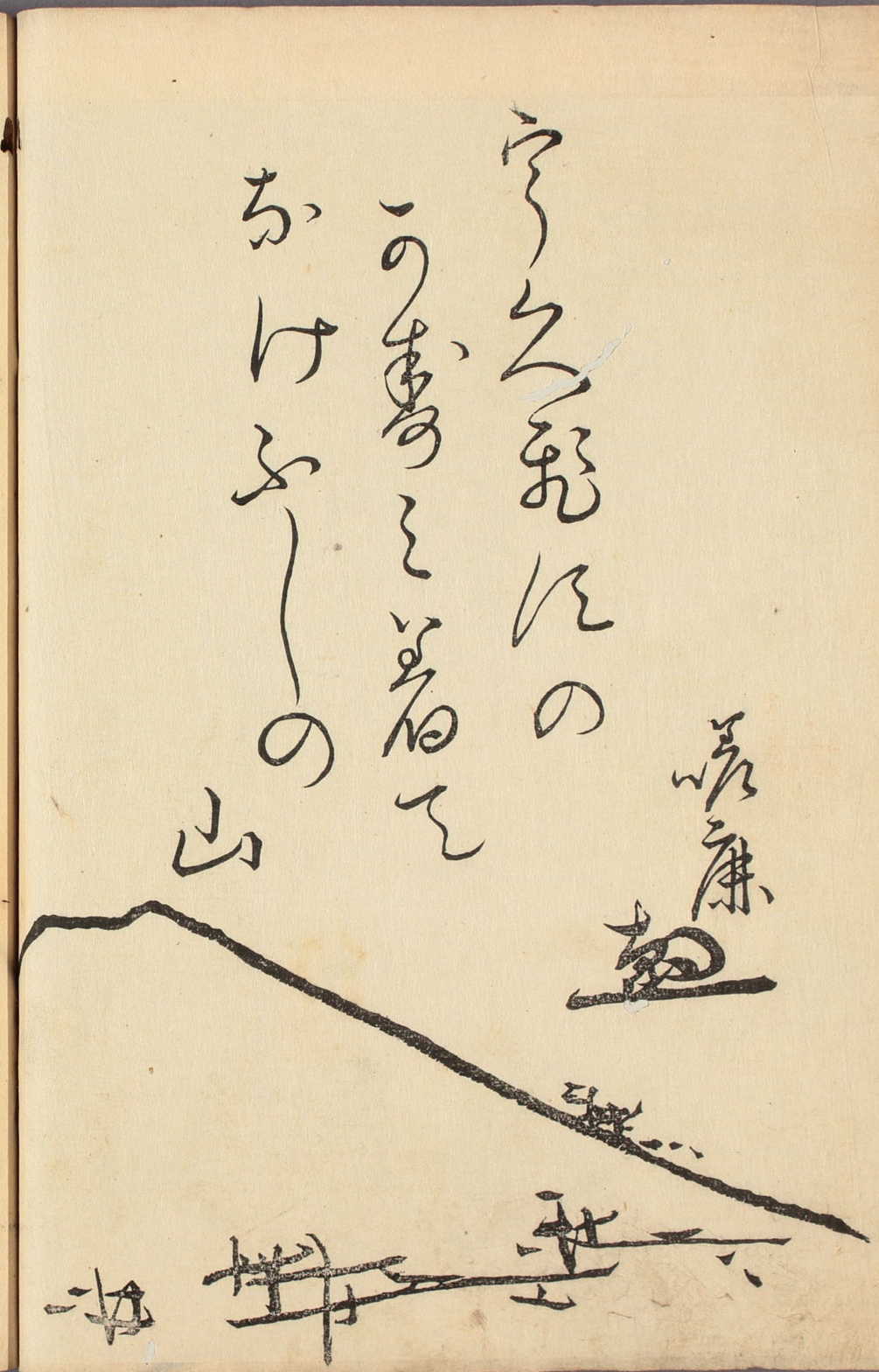


梅の春
門を
初まるものも
五周

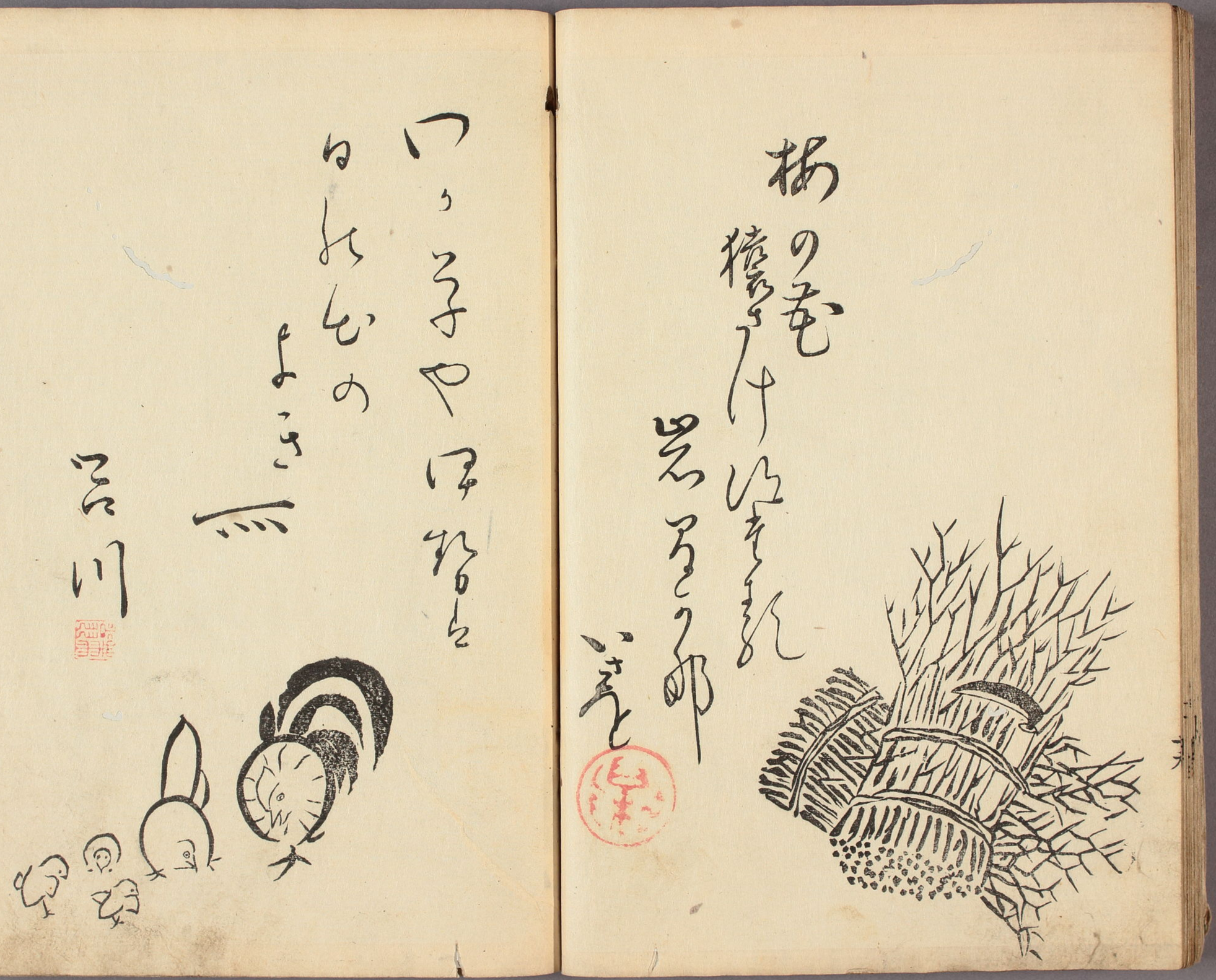


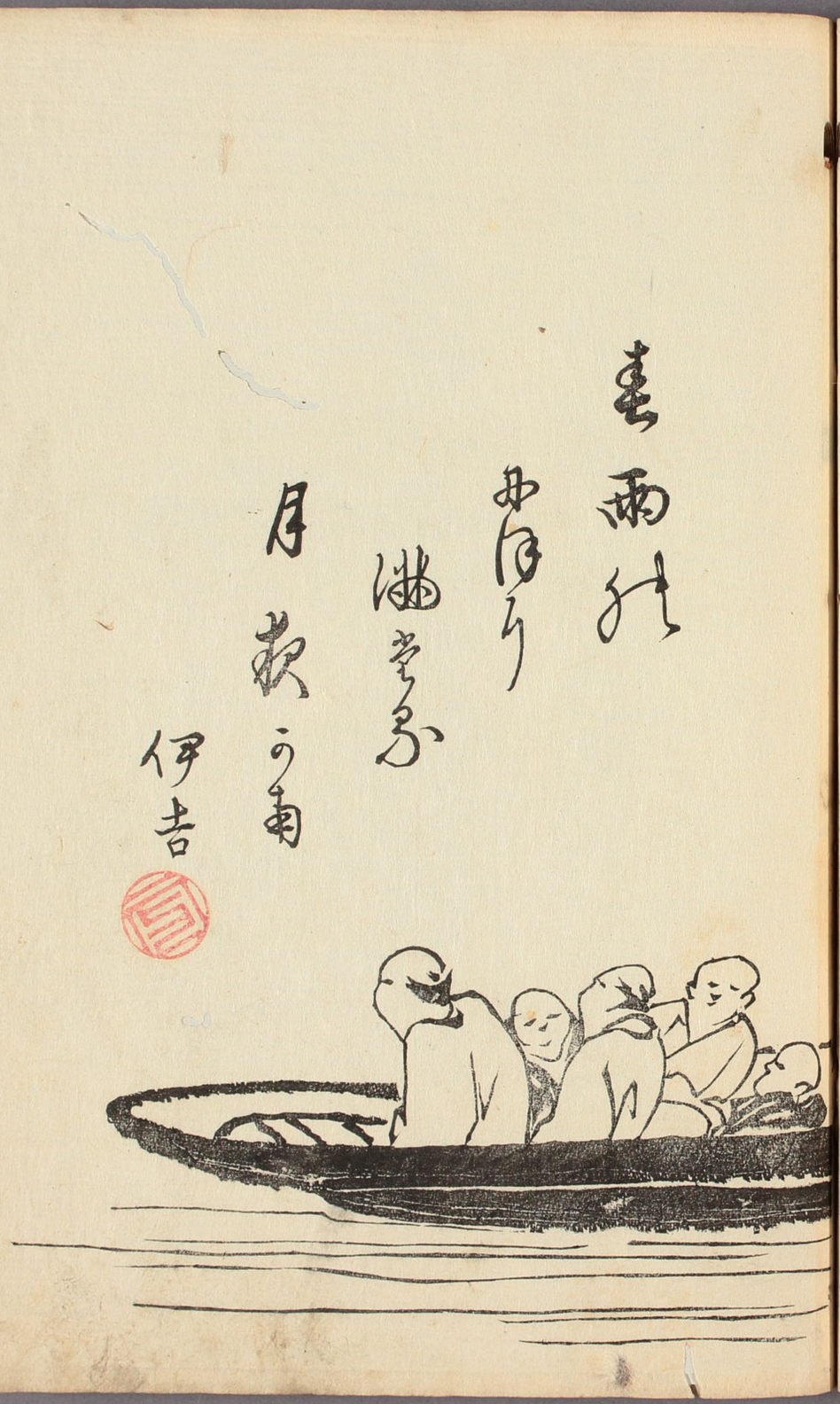
流るらん　あり明の
山乃きや
春の水

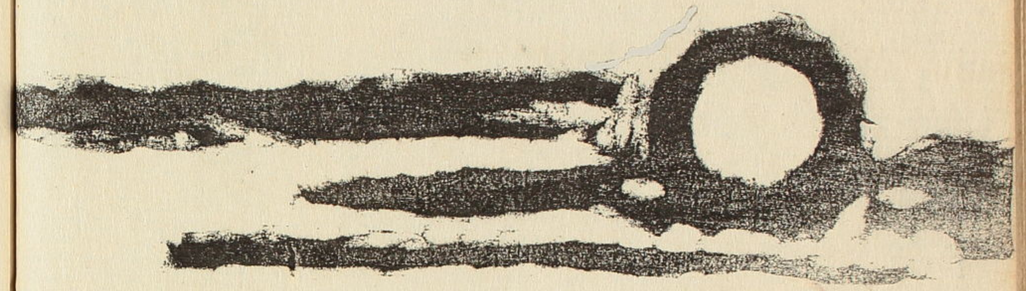
斧持つ
少年
陸四郎



安遠年與士
奈良夏計南
連天波津揚
巳伯

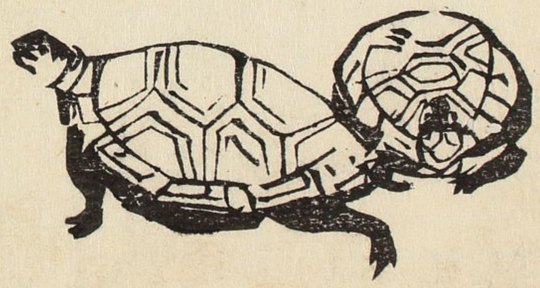

柳の老
猫ふけ法師
思ふ子の郎
さと
つゝ子やほ
ゝおもの
よさ
こと川


春雨
月秋の雨
伊吉



きけくとやさへて
梅のとふまめ

泥中引
亀の尾長し
初日は影



少年
乙五郎

大鶴蛇寫

題王昭君　逸人

靡つゝ柳をもすへ胡地の旅
牆をふくまゝ月の眉　竹有
染てけの色ふかく庵のうち掃て　也實
うゝしく雲ふかくまし又泥ふかする　舍童
青あしされ花ゝ眞木程　木天
安免うた桃ゝと京古多時　棋居

ひとり行く水雉のあとをうき　一瓢
松葉はよつゝ行のつゝ　逸人
いさ我心をとゝ求ん蒼の石　竹有
ゆゝの浮つむちゝ嵐のうへ　也實
みゝれ帝色のたつきを明島　范舍
二月三日桃見もうれ　木天
ゝ花云義月の名所を拾ふ　舍童
あを弼うも新書くやる　一瓢

古くより姉うさぎ海のうけ毛にて　棋居
志のふのをうのふもとせ　竹有
こゝ地の花の咲をゆくとも　逸人
ひのさゝ舟にみかふ者見　花舎
宇虞非寸の素てハ咲戻　昆明
綱ひいなとしてこ小山門ふしる　かゝ汝
それ鞠ふ陽ようけるる杉の柯　也実
多ゝ家をたふさゆる白雲　棋居

これても法師を造る美ゝ世　末天
賊をやめ〳〵る鬼麻呂う妻　逸人
ものひ見ふ手九のき也を載て　かゝ汝
実あるうふ記言詔きく　昆明
源氏の亀をとゝ〳〵書習ひ　棋居
岩ゝ九州をの神海のう　也実
つ四ふ海通う寝る古道　逸人
篭の詠ゝ通〳〵ゝ秋　末天

[illegible]仏の[illegible]の庵うて　昆明

むらしぐれ　[illegible]を[illegible]く　棋居

琴琵琶弾てきのふのうきをこそ　也突

[illegible]水[illegible]おちる　茶蘇非　呑舟

花のすゑ　国の境の[illegible]ん　少毋

文[illegible]つはき春雨の[illegible]　范舎

樵夫茅[illegible]う　這入る[illegible]

山[illegible]　[illegible]十[illegible]　逸人

[illegible]　[illegible]よ

[illegible]　杜[illegible]　石[illegible]

[illegible]　少年　陸四郎

馬[illegible]　嘘[illegible]　久敷遣り

苔の子の垣根一面

飛ぶ蛍うよ〳〵自然薯

夢とうつつ

竹有

毎日茂

丹波毎

生き出ぬ

しつと端午

[illegible]と　秋蛍

一ちぬ色むし

ふすまの　蛍火　豊樹

[illegible]や二月の

雨の中

柳原に

ゆう

夕涼み

桜の

昆明

月代の
逝くて
寺里雲孔　鶴彩　花全

如て去清水異サの船　鐘子

短冊乃明り　大巣

月の沼間この面

一茎ひしてこぼす稲ゝ白旭うゝ面　無暦

曇赤立
櫻珠乃山詠が　少年　其水

我の
喇叭の　乙五郎
月門　涼

我嵩は蓮ゝ井ゝ時ゝ鶏　伊吉

[illegible]人の笠見等[illegible]時の日　寺島　棋石

冷泉社　沖繪

笑ふて[illegible]　巳伯

[illegible]　巳雪

[illegible]　小竜

[illegible]

[illegible]　京舟

[illegible]の[illegible]　魂祥

[illegible]の[illegible]　京屋

居眠もハさくりから
からつ子哉　而后

當のうら仲山
寛ときゝた蕨

立原風すゝ小
海月もとうけし　董雄

錦土に数よ縫をさく
若葉茶　祈兵

鼻かミ世を雁か
夜起ねし
和やきれ　丘圃

蓍うしろて
もう蚊
人のは月常見　折尾

紫燕のまつりを
始まるまへとして事

五月雨やためしふかゝりし瀬川

色遣

岩橋や夜雨のあとの時鳥

筆丹

宗鑑

去年はつの八
すゞしさの松

影のつめ木もと

南醍や柳のさもれ

菊子

ゆめの世の
柚の

也莫

粽結ふ面りしうひ残さし

文

出来に色

いそかしや時雨雲の嵐　東陶

よい道に佐屋は海なや五月雨　京加賀世

萱ふるも枯ゐも見え人の川日よ春かな　古佳堂

歌仙行

市山里の市もれおゝ起し寉云る　逸人
夏をひろ解浮浪の夕しは　少汝
きゝとし風を守る松の上　民収
酒あらし先る新々るこゝ　也実
人の来ることかの小隣をとむの鳩　標居
きのふひ浴ひし薪たく折る　一瓢

すもしと柚の老白ふをとしふよ　未天
君の寄をうの蝶のふるまひ　逸人
うきしきハ結ふむまてる幸まと　范舎
福色の見し神　啼の面　か汝
帆柱の鶴の門　根を浮て也　実
浅の河をしいて高　昆明
鶴をまくせて　紀伊の海苔　呑舟
衣板の川　高野を傳つる　楳居

市場もあるまじき世の浮法師　逸人
こそアとしてもの太平耳かく　未天
雉子啼野辺の草　昆明
中陽うしろそこ　伊勢糸り　か汝
虚空僧の嘘算　師て春の　所有
古妻こまかる　格のあ　范舎
むきあふむ　法の光へ　舎亭
うむきうる　漢の麿　逸人

如雪とも日新のうつるものゝ人　木天
き如あゝ〳〵へ泥水を尋ぬる　昆明
尼達の念仏ハ〻泥水踏　范合
代神ゝ〻を白雪の波　呑舟
仲原を尋て天神諸の群　一瓢
ゝりの人ゝ里ゝ〻く碑ゝ　所有
を御冠者原かゝ〻く路　逸人
御水ゝつゝ藤や置ん　舎竜

を記録ゝ〻の中ある見ゝく　昆明
油を如ゝ〻ふ及古ゝ〻ある　木天
書ゝ〻ふ雑ゝ書ゝ〻乾ゝ　呑舟
きつゝ〻ゝさくゝ〻む　逸人
紙夜の花のさゝ〻りゝ〻ある　所有
余陶の四ゝの見ゆるゝの巻　一瓢

跋

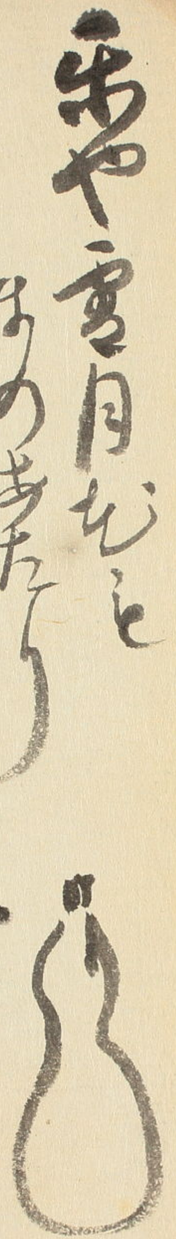
一年二百十日風雅まことの道
をうくまなびとなりて百年
ちの人多きを嘆き梅樹新の主人を
日々に法風を弘まり終に
仏ひ来たりぬるものもし
たまくに梅樹すなわちむらたを
一時五句を作り連合し

人々にかたらひ移りを知らひ
の世々を数の言葉をうたく
梅木のちりたはむ芳園集とい
名つけられ

木兎書

大和文化萬年之十年歳在
癸酉春正月朔旦
思永堂逸人述

鐫工 勸善堂



2